

秋田県 高P連会報



No. 116

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社



健やかに逞しく

秋田県高等学校PTA連合会

千秋公園の蓮 (写真:長澤善徳氏)

会長 佐野 元彦

いま高校教育が注目を集めています。十数年ぶりに中央教育審議会に高校教育に関する部会がつくられ、まとまった議論の結果、昨年末に答申が出されました。

そのキャッチフレーズは、「すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために」となっています。具体的には、「志」を高く掲げ、その志を実現するために、「真の学力」(十分な知識と技能を身につけ、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性をもって多様な人々と協働すること)を得ること、とされています。

私たち保護者の願いは、言うまでもなく「子供たちが健やかに逞しく成長すること」です。振り返ってみると、これまでのPTAの活動の中心は「健やかに＝健全育成」でしたが、今後は「逞しく＝キャリア教育や真の学力習得への支援」にも力を入れて行かなければならないと考えます。

特に、大都市圏との格差が拡大し、人口減少の影響によ

る地域消滅の危機にさらされている我が秋田県をはじめとする地方においては、これからの時代の責任世代である若者たちの「逞しさ」を育むことが重要になってきます。いわば、少数精鋭による地方創生です。

健全育成活動の底流には、高校生は未熟な子供であり守るべき対象だという感覚があったように思いますが、キャリア教育や真の学力習得など逞しく成長することを支援する活動においては、高校生は大人・社会人への入り口にあり、対等な存在として遇するという姿勢が大切だと思います。皆さんも、自らの高校時代を顧みたま、子供から大人への大事な転換期だったと懐かしく思うのではないでしょうか。

次の時代の主人公である高校生たちが、健やかに逞しく成長し、きっと今よりも素晴らしい社会を築いてくれることを信じて、活発な活動を各学校PTAの場で繰り広げてまいりましょう。

秋田県高等学校 PTA連合会

平成27年度 総会

平成27年度定時総会は、5月29日（金）秋田市協働大町ビルにて201名が出席して開催されました。

佐野元彦会長は挨拶の中で、今年度から値上げとなったPTA会費について、「値上げにご理解いただいたことを心より感謝申し上げますとともに、各校PTA活動の活性化につなげるべく県高P連の取り組みをこれまで以上に充実させていく」と述べられ、「私たち一人一人が、PTA活動を通して広がった視野や知見を、子供たちや学校そして地域に対しての行動につなげ、素晴らしい地域社会を、そして、次の世代を担う人材を育てることに力を注いでいきましょう」と締めくくられました。

続いて、来賓の県教育庁鎌田信教育次長、高校長協会長伊藤成年秋田高校長からそれぞれ、「学校・家庭・地域をつなぐ要となるPTAが果たす役割はますます重要になっている。高P連の諸活動に大きく期待



佐野元彦
県高P連会長



鎌田 信
県教育庁教育次長



伊藤成年
高校長協会長

するとともに、今後も充実した連携で高校生の健全育成に取り組んでいきましょう」と祝辞が続きました。

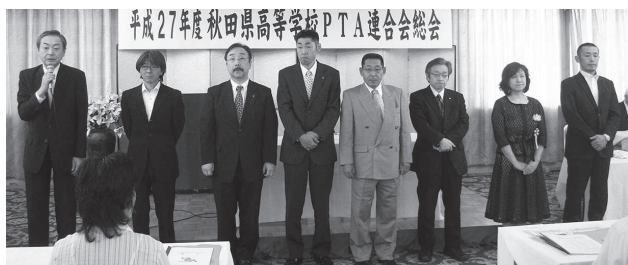
その後、佐野会長より各PTA活動に貢献され功績のあった122名を代表して鈴木静夫大曲高校前PTA会長に感謝状贈呈。また、広報紙コンクールの表彰も行われ、最優秀賞の県立養護学校天王みどり学園PTAを含め6校の栄誉を讃えました。受賞者を代表しての吉田千鶴子男鹿海洋高校前PTA会長から謝辞がありました。

議事は、中嶋日吉能代高校PTA会長を議長に選び、平成26年度会務報告、収支決算報告及び平成27年度事業計画案、予算案を承認。佐野元彦会長の再任及び新役員が決定し、秋田県高P連平成27年度の諸活動が本格的に始動しました。



退任役員

お疲れさまでした。



新任役員

よろしくお願いします。



母親委員の皆さんには準備や受付でご難儀おかけしました。



中嶋日吉議長（能代）

瀬下和夫副議長（秋田南）

受賞者謝辞

受賞者代表 **吉田 千鶴子**

(男鹿海洋高校前PTA会長)

只今、ご紹介にあずかりました吉田でございます。本日は受賞者を代表し謝辞を仰せつかっておりますので甚だ僭越ではございますが一言御礼を述べさせていただきます。

〈中略〉

私たち保護者は両親の深い愛情の中でこの世に生を享け、人生の節目で最高の伴侶に巡り合って大切な命を授かりました。私たちは子供のお蔭で親になる事が出来たのです。

私は、役員を引き受けさせて頂いて18年になりますが、きっかけは子供を授かって母親になる事が出来たご恩返し思いからでした。とりわけ高P連でお世話になった3年間は“喜びと幸せの詰め合わせセット”が出来る程大変充実しておりました。

本日、受賞された皆様や会員の皆様と共に学び、共に楽しませて頂いた貴重な体験は、沢山の方々に支えて頂いて賜った宝物となりました。

その中で特に印象に残っているのが今年の母親会員交流会であり、一昨年の秋田県立男鹿海洋高等学校の文部科学大臣賞の受賞でした。

悩み多き子育ても子供を授かって感じる最高の幸



せである事を確信し、学校と子供を繋ぐかけ橋として保護者も一生懸命に努力をさせて頂く事が、学校の歴史を作り上げていく一助になる事を大変幸せと思っております。

今後はこの思いを現役の役員の皆様に引き継いで頂き、大切な子供の為に父親である事、そして母親でいられる事を思う存分楽しんで欲しいと願っております。

最後になりますが、次代を担う子供たちの為、子供を愛する保護者の為にも、今後も引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げますと共に、秋田県高等学校PTA連合会の更なる発展をご祈念申し上げ受賞御礼の言葉に変えさせていただきます。

まことにありがとうございました。



感謝状 代表受賞
鈴木静夫 大曲高校前PTA会長



最優秀賞
天王みどり学園



優秀賞
秋田和洋女子高校



優秀賞
横手清陵学院高校



奨励賞
大館工業高校



奨励賞
新屋高校



奨励賞
本荘高校定時制課程

広報紙コンクール受賞

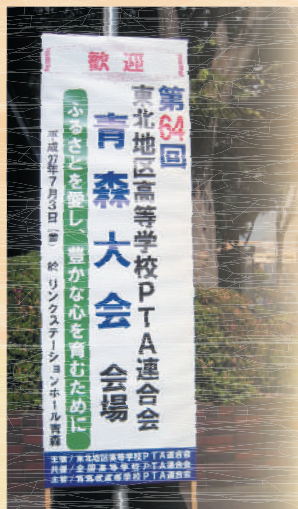


県高P連 受賞者の皆さん

テーマ 「ふるさとを愛し、豊かな心を育むために」 ～PTA活動とふるさと教育～

第64回 東北地区高等学校PTA連合会 青森大会

平成27年7月2日(木)～3日(金) リンクステーションホール青森



平成27年度東北地区高等学校PTA連合会青森大会は、7月3日(金)に青森市文化会館において約1500人が参加して開催されました。

今大会は「ふるさとを愛し、豊かな心を育むために～PTA活動とふるさと教育～」をテーマに掲げており、開会式では住吉治彦大会会長より「2011.3.11東日本大

震災はいまだ復興が進んでいない。特に福島県は原発を抱え解決の目処さえ立っていないのが現状。少子化、地域格差など不安の多い東北地区だが、家族や地域を見直し自分は何が出来るかを模索する若者が増えている」と挨拶があり、佐野元彦全国高P連会長からは「社会の多様な現象にわれわれ保護者あ

るいはPTA関係者はこれまで以上に真摯に向き合い、子供達とともに悩み、ともに考え、子供達に寄り添いながら解決を図ることが求められている。そのためには目先の対処療法に追われるだけではなく、地域や日本の将来のあるべき姿について保護者自身が広く深く学び、ひとつの考えを持ちながら家庭・学校・地域・行政を結びつける役割を積極的に果たすべきと考えている」と挨拶がありました。

研究討議では当県から大曲農業高校PTA会長の橘正幸さんが『ふるさとの元気をつくる人間の育成を』と題して発表を行い、小話を交えながらの話術に会場が大いに盛り上がりしました。

また、恐山菩提寺院代の南直哉さんより『魂のゆくえ』と題して東日本大震災にまつわる恐山の関わりや、イタコとの関係などについて講演頂きました。

その他、地元青森の高校生のはつらつとした発表や、オープニングの津軽三味線演奏、エンディングの担ぎねぶた出陣などもあり、青森の元気を感じた東北大会でした。



津軽三味線演奏（五所川原第一高校）



担ぎねぶた出陣（青森工業高校）



東北高P連 受賞の皆さん

東北高P連表彰

感謝状

大曲高校
秋田北高校
湯沢翔北高校
秋田県高P連

鈴木 静 夫
石 井 広 樹
和 賀 幸 雄
三 浦 基

表彰状

男鹿海洋高校
御所野学院高校
本荘高校
西目高校
湯沢高校
雄勝高校
能代高校
聖霊短大付属高校

吉 田 千鶴子
熊 谷 亨
齋 藤 浩太郎
木 村 智 明
八 柳 長 門
小野垣 昭 治
楊 葉 子
西 山 満寿美

広報紙 コンクール

優良賞 養護学校天王みどり学園PTA
奨励賞 秋田和洋女子高校PTA
横手清陵学院高校PTA

東北高P連青森大会での 発表機会を与えて頂き

秋田県立大曲農業高等学校 PTA会長 橘 正 幸



「PTA活動とふるさと教育」というテーマで発表させて頂いたことは、とても貴重な体験となりました。何より、生徒たちの学習や農業クラブ活動全てが「ふるさと」と深いかかわりの中で展開されているということに気がつき、それを取り巻くPTAが活動の意義を再確認できたということが大きな収穫です。そして、生徒・保護者ともに尊い「いのち」というテーマを無意識の中で重要性を感じながら生産・流通・販売・消費を一緒に見つめなおす大切な機会となったことはPTAにとっても、大きな前進であったと思います。発表にあたり、ご指導頂きました大曲農業高校の先生方はじめ、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

発表要旨

ふるさとの元気をつくる人間の育成を ～ 農業高校でのPTA活動 ～

秋田県の穀倉地帯仙北平野。全国花火競技大会で有名な大曲にあります本校は、123年の伝統があります。

「農業教育を通じて豊かな人間性を育み、時代に即応する職業人の育成」を教育目標に掲げ、最先端の農業教育が行われてきました。

現在新校舎建設中であり、来年4月には完成予定です。全校生徒は517名。各学年とも農業科学科3クラス、生物工学科1クラス、生活科学科1クラスです。部活動も盛んで、昨年度のインターハイには、女子ハンドボール部、自転車競技部、なぎなた部、柔道部、相撲部、陸上部の選手が出場しています。今年も31名の選手団がインターハイに出場します。更に、農業クラブ全国大会においては、きのこの研究で、優秀賞を受賞するなどの活躍を収めています。

地域には卒業生も多く「大農」として親しまれ、農業県秋田の次世代を担う若者への期待も大きなものがあります。日頃から、地域とのつながりを大切に教育活動が展開されています。その一部を紹介します。

① 保育園・小学校・福祉施設との交流

授業や行事を通して農場へ招待したり、保育園や小学校へ行ったりしての農作業の交流、福祉施設との交流も行われています。

② 県立農業科学館において、ナビゲーター検定を受験し、ナビゲーターとして、農業への理解を深め、コミュニケーション能力を養うことに大きな成果をあげています。

次に産学官連携に関する研究活動では、エコワングランプリで内閣総理大臣賞を受賞した「きのこの研究」。地域の食材を活かした特産品「大仙はなびピザ」の開発など、高校生の柔軟な発想がクローズアップされています。

運動部の活躍はもとより、特筆すべきは、郷土芸能部の活動です。地域に受け継がれる農村の文化を、地域の方々の指導をいただいて伝統を継承しています。農業関係のイベントはもちろん、病院や施設の慰問などにも多くお招きがあり、高い評価をいただいています。こちらは、秋田おばこ娘が大仙市広報の5月号の表紙を飾らせていただきました。

「ふるさとの元気をつくる大農生」を育てるため、PTAと

して、「ふるさとや農業への理解を深めよう」という研修を行っています。きりたんぼ製造工場見学、青果市場や酒造会社への視察では、農業の可能性について学習しました。

そして今、力を入れているのが、学校行事にも多く足を運ぶことです。田植えが終わり、農作祈願の「早苗振」が今年も6月11日に開催されました。保護者や地域の方々合わせて150名も参加して大農で肥育された豚2頭や実習で作った味噌で調理した1200人分の豚汁もいただきました。尊い命への感謝の思いを生徒と一緒に共感しました。秋の大農祭では懐かしいポン菓子作りで盛り上げの役をかつています。

また、壮行式や授賞式など学校行事への参加も年々増加しています。校外では声かけ運動や、環境美化活動にも率先して参加して下さる方が増えています。昨年度は、学校側の協力をいただき、携帯電話に関する調査にも取り組めました。

結びに『PTA活動とふるさと教育』このテーマでの発表の機会を与えていただき、いろいろと考えをめぐらせてきました。『ふるさと』という言葉の一番深い所にあるキーワードは『命』です。一つしかない命、限りある命、受け継がれてきた命、そしてこれから継いでいく命。その命のために、数多くの動植物の命を、私たちが生きていくために頂戴しています。しっかりと生きて、命を輝かせることが動植物への感謝です。そして、その命がお世話になった地域や環境など全てが「ふるさと」であり、ふるさとのおかげ様で成長してきたのだと思います。

今年の3月、卒業式で卒業生に、『生まれ育ったふるさとを大切にしてください。そして、この大農も君たちの故郷であるということを忘れないでほしい』という言葉を送りました。我々「大農生」にとってふるさととは何かを考えていたら、校歌の中に答えがありました。

「瑞穂の国の使命をば 果たさでやまん事やある」

大農にとってのふるさと、とは、「日本」です。農業高校において、ふるさと教育は、とても重要な位置づけにあります。ここ大農に学ぶ生徒たちが、いつの日か「ふるさとの元気をつくり未来を担う若者」と成長できるようにPTA、学校、地域と連携しながら、心を通わせ活動を進めていきます。

❑ これからの行事ご案内

第28回母親会員交流会

- 期 日 9月16日(水)
 会 場 秋田県生涯学習センター
 研究主題 「もう一度見つめ直そう 家庭から発信できること」
 内 容 (1)講演 講師 マナーリングプロジェクト主宰 佐藤 友子 氏
 (2)実践 美しいマナーや所作を身に付けよう！
 (3)グループ別討議
 (4)リフレッシュタイム 簡単ヨガで心も体もリフレッシュ！



平成26年度の様子

地区交流会

県北地区交流会

- 期 日 10月8日(木)
 会 場 北秋田市交流センター
 研究主題 「高校生の「未来を生きる力」を育てる ～自らの人生を切り拓いていくために～」
 内 容 (1)講話 『経験が人を成長させる ～耕耘機で全国行脚から得たもの～』
 講師 有限会社藤岡農産 代表取締役 藤岡 茂憲 氏
 (2)ドラムパフォーマンス 北秋田ドラムサークル
 (3)教育懇談会

主 管 秋田県高等学校PTA連合会北秋田地区協議会 / 事務局校 秋田北鷹高等学校

学校PTA連合会県北地区交流大会



平成25年度の様子

中央地区交流会

- 期 日 10月9日(金)
 会 場 サンルール大潟
 研究主題 「地域と連携したキャリア教育」
 内 容 (1)講演Ⅰ 『世界一こどもが育つ秋田を目指して ～地域発の仕事づくりと、学びの環境づくり～』
 講師 ハバタク(株) 代表取締役社長 丑田 俊輔 氏
 (2)講演Ⅱ 『五城目町から世界へ ～日本酒のさらなる発展を目指して～』
 講師 福祿寿酒造(株) 十六代目蔵元 渡邊 康衛 氏
 (3)公演 『浦の虎子踊り』
 NPO法人 浦城の歴史を伝える会 理事長 北嶋 雄一 氏
 五城目高等学校インターアクト部生徒
 (4)教育懇談会

主 管 秋田県高等学校PTA連合会男鹿・潟上・南秋地区協議会 / 事務局校 五城目高等学校

県南地区交流会

- 期 日 9月25日(金)
 会 場 横手セントラルホテル
 研究主題 「子どもを取り巻く社会の変化に、PTAはどう対応していくか」
 内 容 (1)講演 『秋田と若者たち』
 講師 特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター
 南部市民活動サポートセンター
 秋田県若者会議ネットワーク
 コーディネーター 奥 ちひろ 氏
 (2)分科会 第1分科会 『家庭における情報端末活用のルール作り』
 第2分科会 『高校生を子に持つ家庭のしつけの在り方』
 第3分科会 『学校活性化に向けたPTAの役割』
 (3)教育懇談会

主 管 秋田県高等学校PTA連合会横手地区協議会 / 事務局校 雄物川高等学校



平成25年度の様子

平成27年秋田県高P連「広報紙コンクール」の募集について

- 趣 旨 「PTA活動の活性化を目指すために各校より広く作品を募集し、優秀作品について表彰・公開することで広報誌の内容のあり方・改善を図る」
- 対象・応募方法 ○平成27年1月から12月までに発行された広報誌を対象とする(平成26年度のものでも期間内であれば可)
○応募作品は各高等学校PTA広報誌 1点
- 募 集 期 間 平成27年11月1日～平成28年1月中旬
- そ の 他 詳細については後日、各校PTAに案内します。

周年行事実施高校



創立90周年

秋田県立能代高等学校

平成27年10月3日(土)記念式典挙行

1925年(大正14年)秋田県立能代中学校として開校。1948年(昭和23年)能代南高等学校と改称。1953年(昭和28年)能代高等学校と改称。1974年(昭和49年)樽子山から高埵へ校舎移転となる。



創立90周年

秋田県立増田高等学校

平成27年10月17日(土)記念式典挙行

増田町立実科高等女学校として大正14年創立。本年創立90周年を迎える。戦後男女共学の県立雄平養蚕学校となり、昭和23年に秋田県立増田高等学校と現在の校名に、同35年に普通科、家庭科、農業科、園芸科を擁する高校となる。平成7年、すべての学科を廃止し、県内最初の総合学科と農業科学科を設置し現在に至る。



創立70周年

秋田県立能代西高等学校

平成27年10月10日(土)記念式典挙行

1945年(昭和20年)能代市立能代女子実業学校の農業科設立。1947年(昭和22年)秋田県立能代農業学校として農業科を独立。1948年(昭和23年)秋田県立能代農業高等学校と改称。1965年(昭和40年)文部省より自営者養成農業高等学校の指定を受ける。1994年(平成6年)秋田県立能代西高等学校と改称。1998年(平成10年)総合学科新設。



創立50周年

秋田県立西仙北高等学校

平成27年10月10日(土)記念式典挙行

昭和40年仙北郡西部で唯一の高校として誕生した。平成2年木造のユニークなデザインの新校舎が完成した。平成10年度からデンマーク社会福祉研修を実施し、今年度で18回目を迎える。多様化する生徒への対応と特色ある学校作りを目指してコース制を導入している。



創立10周年

秋田県立秋田明徳館高等学校

平成27年11月1日(日)記念式典挙行

平成17年開校。秋田東の定通、及び、秋田中央、秋田工業の定の、3校の定時制課程・通信制課程を統合。秋田駅前の教育・福祉複合ビルに開校。平成16年11月秋田東高等学校創立60周年記念式典を挙行。



創立10周年

大館国際情報学院中学校・高等学校

平成27年10月10日(土)記念式典挙行

平成17年4月に大館商業高校を母体校とする併設型の中高一貫教育校として開校



役員紹介

「座右の銘」と一言メッセージ



会長

秋田高等学校
佐野元彦

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」

はからずも会長として4年目に突入してしまいました。昨年からは全国会長としての活動に時間を割かれていますが、そこで得た情報やネットワークを秋田県の高校生のために役立ててまいります。



副会長

大館国際情報
学院高等学校
村岡昇

「あなたの将来には希望がある」(聖書)

高校3年生のとき、この言葉と出会いました。今日まで人生をささえてくれた大切な御言葉です。人は誰かの励ましがあるなら、自分が思っているよりもはるかに大きな成功をおさめることができます。



副会長

能代工業高等学校
石嶋勝比古

「凡事徹底」

人として「当たり前」の事を当たり前でできているだろうか? 自問自答。

子育て、日常生活、全てにおいて「当たり前」の事を当たり前に行うのは意外に難しいもの。『当然』とは道理にかなうことである。



副会長

仁賀保高等学校
関守

「チャレンジして失敗するよりも、何もしないことを恐れる」

本田技研工業創業者、本田宗一郎氏のお言葉です。失敗を重ねることで人として成長するものと思います。失敗を恐れることなく、常に「チャレンジ」の精神を忘れずに皆さんの人生を邁進してください。



副会長

角館高等学校
佐藤義一

「ローマは一日にして成らず」

自己実現を可能ならしめる条件は、日々の研鑽と弛まぬ努力の継続です。とかく人間は苦境を逃避しがちですが、ピンチをチャンスに替えるプラスの発想さえあれば、結果は自ずと付いて来るものです。どれだけ長い道程であっても…。



副会長

横手高等学校
山信田勢津子

「人生において無駄なことなど一つも無い」

人生は常に順風満帆というわけではなく、悲喜交々の繰り返しで成り立っています。それら全てに学びがあり、自己へ取り込むことで教えとなります。そんな風に捉えて、前向きに人生を歩んでいきたいものです。



副会長

高校長協会
秋田高等学校長
伊藤成年

「耕不 尽」

人の能力(心)は、耕せど尽きることはなく、耕すほど豊かに、磨くほど光り輝く。自分の能力の限界を感じる場面があっても、それに挑戦する気概を持って取り組みれば乗り越えられるもの。未来を生きる高校生諸君には、高い志を持って自らを耕し続ける人間になってもらいたい。



監事

十和田高等学校
小館一仁

「笑う門には福来る」

ツキのある人は、「よく笑う」と言います。失敗しても、明るく笑いとばしてしまうのです。こういう人のことを、幸運の女神も大好きなのでしょう。PTAラストイヤーとなりました。笑って過ごしたいものです。



監事

秋田中央高等学校
杉本正人

子どもたちが、豊かな社会性と優れた想像力を養い、自ら責任を持って行動できる人間として成長していくことは、すべての人の共通の願いです。その実現のためには、子どもたちの生活の場である「家庭」「学校」「地域社会」がそれぞれの責任と役割を自覚し、意欲を持って充実した生活を送ることができるよう支援することが必要と考えます。後方からサポートし、時には厳しく、時には優しく見守りたいと思います。



監事

湯沢高等学校
高久臣平

「雲外蒼天」

人生とは一生学びです。その中で、苦しいこと、辛いことが沢山あります。しかし、雲の上には必ず青空があるように、辛苦の先には必ず楽しいこと、嬉しいことが待っています。高校3年間、先を見据えた努力をすれば必ずいい人生が待っています。

平成
27年度

秋田県高等学校PTA連合会 役員一覧

* 高校長協会代表 ○ 母親委員会代表

役 職	学 校 名	氏 名
会 長	秋 田	佐 野 元 彦
副会長	大館国際情報学院	村 岡 昇
	能 代 工 業	石 嶋 勝 比 古
	仁 賀 保	関 守
	角 館	佐 藤 義 一
	横 手	○ 山 信 田 勢 津 子
	秋 田	* 伊 藤 成 年
監 事	十 和 田	小 館 一 仁
	秋 田 中 央	杉 本 正 人
	湯 沢	高 久 臣 平
理 事	十 和 田	曲 田 淳 也
	大 館 鳳 鳴	桑 名 秀 明
	大 館 桂	田 中 政 樹
	大 館 鳳 鳴	* 立 石 隆 博
	秋 田 北 鷹	長 岐 薫
	能 代 松 陽	佐 藤 幸 樹
	能 代 松 陽	* 長 岡 光 夫
	男 鹿 工 業	齊 藤 憲 二
	金 足 農 業	相 澤 重 範
	秋 田 南	瀬 下 和 夫
	御 所 野 学 院	九 島 寿 美
	国 学 館	川 村 鈴 子
	秋 田 北	* 佐 々 木 晃 久
	由 利	石 崎 仁
	由 利 工 業	工 藤 弘 之
	本 荘	* 佐 藤 一 吉
	大 曲 農 業	橘 正 幸
	秋 田 修 英	松 本 恵
	大 曲 農 業	* 伊 東 金 一
	横 手	和 泉 健 一
	増 田	石 川 友 也
	横 手	* 古 関 秀 行
	湯 沢 翔 北	富 谷 俊 一
	羽 後	小 野 勝
	秋 田 北 鷹	○ 庄 司 美 浦 子
	秋 田 北	○ 佐 川 ひ と み
事務局長		澤 井 康 孝
事務局員		淡 路 ひ ろ 子

編集後記

116号はいかがでしたでしょうか。今年は全国高P連の全国大会が被災地の岩手県で開催されました。その中で提起された様々な問題が、9月～10月に開催される地区PTA交流会で話し合われます。ぜひ積極的に参加いただき、共に子供たちの未来について話し合いましょう。原稿をお願いした皆様には心より感謝申し上げます。(調査広報委員会)